

栗原の稲作通信

宮城県栗原農業改良普及センター
宮城県米づくり推進栗原地方本部
電話番号 0228-22-9404

令和4年 第7号追補号 令和4年9月21日発行

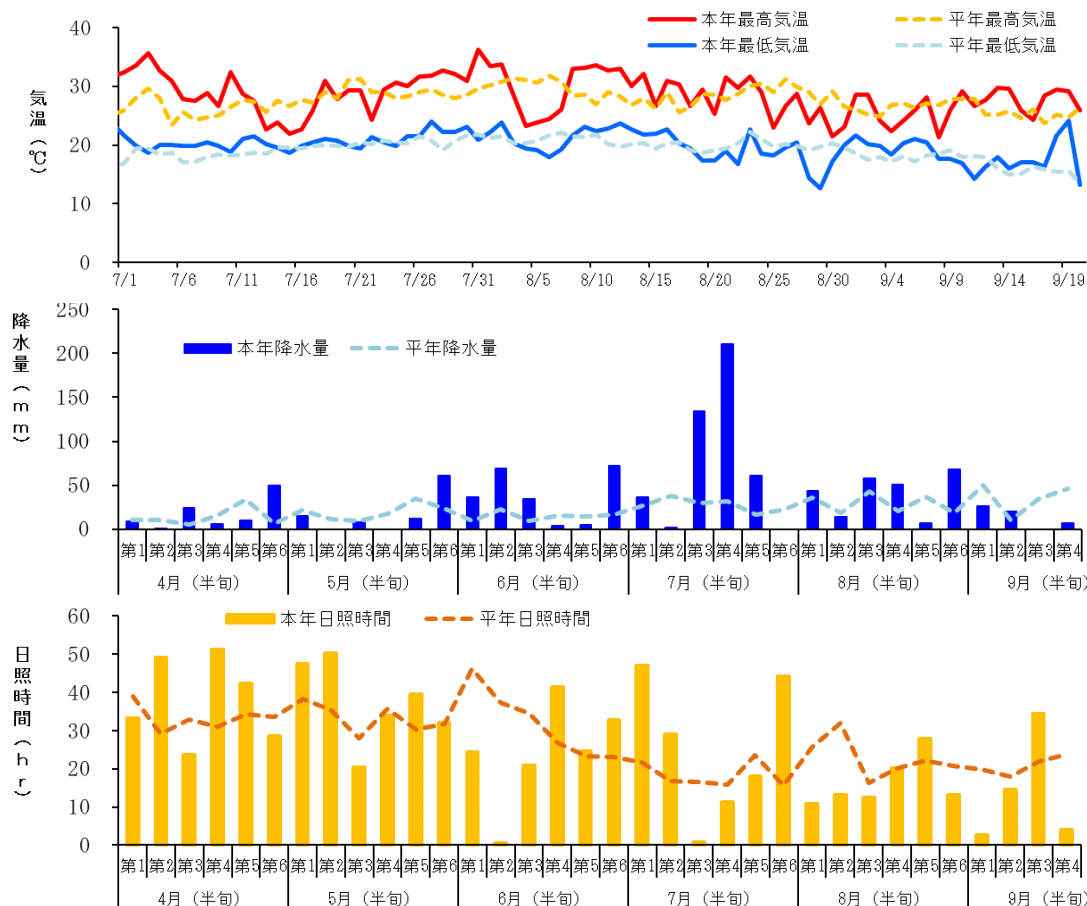
「適期刈取り」による良食味・高品質米の生産に努めましょう。

- 本年の栗原管内の出穂期（50%が出穂した日）は8月4日で、平年より3日遅くなりました。
- 8月7日に収穫期を迎えた北部平坦地帯における中生品種（「ひとめぼれ」等）の刈取適期は9月18日頃から9月25日頃となる見込みです。
- 出穂期や籾数の違いにより登熟の進展に差が生じますので、ほ場ごとに籾の熟色等をよく観察して刈取適期を判定し、刈遅れに注意しましょう。

1 気象経過（アメダス築館）

- 8月下旬は、気温が平年並～低く、日照時間は平年並で、降水量は平年並となりました。
- 9月上旬は、気温が平年並、日照時間は少なく、降水量は平年並となりました。

* 点線は平年(過去5か年平均)



東北地方1か月予報（期間：9/17～10/16）

※令和4年9月15日仙台管区気象台発表抜粋

予報のポイント

暖かい空気が流れ込みやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。気圧の谷や湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。

予想される向こう1か月の天候（東北太平洋側）

平均気温：高い見込み 降水量：多い見込み 日照時間：平年並か少ない見込み

2 出穂状況

- ・栗原管内の出穂期は平年より3日遅い8月4日、穂揃期は平年より4日遅い8月15日となりました。

表1 出穂状況

	出穂始期	出穂期	穂揃期
本年	7/29	8/4	8/15
前年	7/26	7/30	8/9
平年	7/29	8/1	8/11
平年差	同日	3日遅い	4日遅い

注：出穂始期，出穂期，穂揃期は，それぞれ水稻作付見込面積の5%,50%,95%以上が出穂に達した時期である。

3 出穂後25日調査結果

■生育調査ほ

- ・ひとめぼれでは，出穂期は平年並からやや遅くなりました。
- ・出穂後25日調査では，ひとめぼれは稈長，穂長は平年より長くなりました。穂数及びm²あたり粒数は調査ほにより差はみられますが，概ね平年並みとなっています。

表2 生育調査ほ出穂後25日調査結果

品 種	地区	田植日			出穂期			稈長(cm)			穂長(cm)			穂数(本/m ²)		
		本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年比	平年比	本年	前年比	平年比	本年	前年比	平年比
ひとめぼれ	築館 北部平坦	5/14	5日遅	8日遅	8/1	5日遅	4日遅	101	117	121	19.2	98	104	550	105	110
ひとめぼれ	若柳 北部平坦	5/20	1日遅	1日遅	8/3	3日遅	同日	100	115	109	19.7	113	109	482	93	88
ひとめぼれ	一迫 西部丘陵	5/12	4日遅	同日	8/2	2日遅	-	82	108	-	19.3	107	-	333	77	-
ひとめぼれ	管内平均	5/15	3日遅	3日遅	8/2	3日遅	-	94	114	-	19.4	106	-	455	92	-
つや姫	築館 北部平坦	5/24	同日	4日遅	8/17	7日遅	5日遅	85	105	105	17.6	99	98	361	85	81
だて正夢	築館 北部平坦	5/18	2日早	-	8/11	5日遅	-	100	112	-	19.5	104	-	335	86	-
金のいぶき	一迫 北部平坦	5/6	1日遅	-	8/5	同日	-	86	115	-	22.0	116	-	403	99	-
萌えみのり	金成 北部平坦	5/19	6日遅	8日遅	8/10	11日遅	7日遅	87	108	109	20.9	103	105	390	82	84

品 種	地区	葉色(GM値)			一穂粒数(粒/本)			m ² 当粒数(百粒/m ²)		
		本年	前年差	平年差	本年	前年比	平年比	本年	前年比	平年比
ひとめぼれ	築館 北部平坦	34.1	-1.9	0.7	77.2	97	115	425	102	126
ひとめぼれ	若柳 北部平坦	32.7	0.9	-0.3	63.7	109	104	307	101	92
ひとめぼれ	一迫 西部丘陵	31.0	3.7	-	67.0	113	-	223	87	-
ひとめぼれ	管内平均	32.6	0.9	-	69.3	105	-	318	98	-
つや姫	築館	35.6	6.7	2.5	79.2	95	98	286	81	80
だて正夢	築館	31.9	-2.2	-	98.9	115	-	332	98	-
金のいぶき	一迫	28.9	4.8	-	78.1	123	-	315	121	-
萌えみのり	金成	36.2	-2.7	-0.1	91.5	109	112	356	89	94

注1:平年値は過去5か年平均。

注2:一迫ひとめぼれ，築館だて正夢は，令和2年から調査農家変更のため，平年値はなし。

注3:金のいぶきは，令和3年から調査開始のため，平年値はなし。葉数は本年より調査開始。

注4:ひとめぼれの管内平均は，築館，若柳，一迫3か所の平均値。

表3 直播展示ほ出穂後25日調査結果

品 種	播種日	出穂期	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	葉色 (GM値)	一穂粒数 (粒/本)	m ² 当粒数 (百粒/m ²)
ひとめぼれ	4/26	8/16	90	18.9	460	34.7	74.2	341

4 刈取適期の判定

(1) 出穂期からみた刈取適期の目安

- 出穂後の積算平均気温による刈取適期の目安は、「ひとめぼれ」で 940℃～1,100℃です。刈取適期の目安（表 4）を参考に、適期刈取りを行いましょ。
- 積算平均気温が 1,100℃を超過すると、食味・品質が低下するおそれがあるので刈取適期内に刈取りましょ。
- m²あたり籾数が少ないと刈取適期は早まるが、籾数が多くても刈取晩限は遅くならないので注意ましょ。
- 倒伏したほ場では穂発芽による品質低下が起きやすいので、刈取早限になったら直ちに刈取りましょ。

表 4 出穂後積算平均気温から見た刈取適期の範囲（築館アメダス，ひとめぼれ）

	目安となる 積算気温	出穂期					
		7/29	8/1	8/4	8/7	8/12	8/15
刈取早限	940℃	9/7	9/11	9/15	9/18	9/24	9/28
刈取適期	1,000℃	9/10	9/14	9/17	9/20	9/27	10/2
刈取晩限	1,100℃	9/14	9/18	9/21	9/25	10/2	10/7

注：築館アメダスの平均気温データ，9月20日まで本年値，9月21日以降は過去5年間の平均値を使用して換算した。

- 8月7日出穂期のひとめぼれの場合，刈取早限が9月18日，刈取適期は9月20日，刈取晩限は9月25日の見込みです。

表 5 品種別の刈取適期となる出穂後の積算平均気温

品種等の区分	刈取適期となる出穂後の積算平均気温
ひとめぼれ	940℃～1,100℃
ササニシキ	1,000℃前後
だて正夢	1,020～1,060℃
金のいぶき	1,050～1,150℃
みやこがねもち	1,000℃前後
つや姫	1,000℃～1,200℃

※つや姫は，出穂後 1,200℃を超すと茶米の発生が多くなるため，刈り遅れに注意が必要です。

(2) 籾熟色によるコンバイン収穫期の予測判定

- 「ひとめぼれ」では平均的穂数株（枝梗数 8）の中位二次枝梗籾の熟色を観察することにより，成熟段階を判定でき，刈取適期を予測できます。

成熟段階Ⅰ：第 1 位籾が急速に黄化開始（籾黄化判定開始）

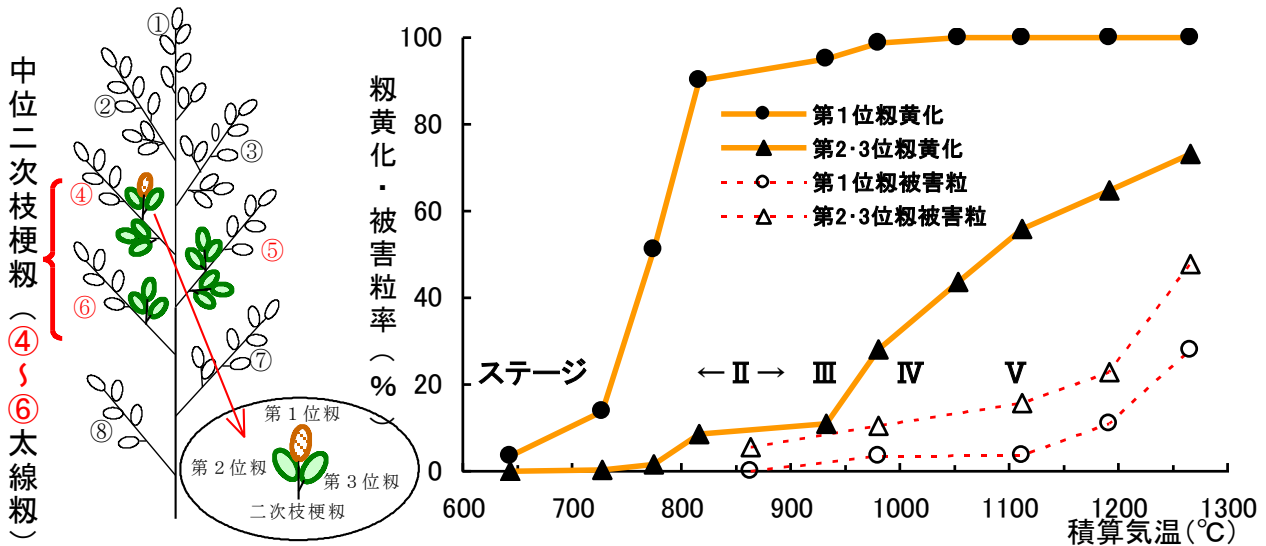
成熟段階Ⅱ：第 1 位籾がほぼ黄化（90%）（7 日以内で刈取早限）

成熟段階Ⅲ：第 1 位籾が殆ど黄化し（95%），第 2,3 位籾が黄化開始（刈取早限）

成熟段階Ⅳ：第 1 位籾の黄化 100%。第 2,3 位籾が 30%黄化（積算気温 1,000℃程度）

成熟段階Ⅴ：第 2,3 位籾が 50%以上黄化（刈取晩限）

} 刈取適期



(成熟ステージ I イメージ図)

図1 積算温度と穂の中位二次枝梗籾黄化率の推移

5 良食味・高品質米に仕上げる収穫・乾燥調製

(1) 収穫作業

- コンバイン収穫では、籾水分が高いと損傷が多くなるため、籾水分は25%以下を目標に刈取作業をしましょう。
- 複数の品種の刈取りを行う場合には、品種が替わる際に十分な清掃を行い、機械内における異品種の混入を未然に防ぐよう注意しましょう。
- 倒伏している場合は、他の稲とは別に「刈分け」を実施し、収穫物に石など異物が混入しないように注意しましょう。

(2) 乾燥・調製作業

- 収穫した生籾を放置すると発熱して変質米の原因になるので、刈取り後、速やかに乾燥機に張り込み送風しましょう。
- 倒伏した稲や未熟粒の多い稲などを機械乾燥する場合は、二段乾燥を行い、水分ムラや胴割米の発生を抑えましょう。
二段乾燥・・・籾水分が18%程度になったら火力乾燥を一時中断し、一定時間通風循環後仕上げ乾燥を行う
- 正確な水分測定のためには、玄米の測定サンプルから未熟粒を取り除いて測定しましょう。また、こまめに水分を測定することで過乾燥を防止しましょう。仕上がり玄米水分は14.5～15.0%が目標です。
- 籾すりは肌ずれ防止のため、籾の温度を室温まで下げてから行いましょう。また、ロール式籾すり機の場合は、籾(品種)に見合った適正なロール間隔に調整しましょう。
- 異品種の混入を未然に防ぐため、品種が替わる毎に機械類の清掃を徹底しましょう。

(3) 共同施設の利用

- 大規模共同乾燥調製施設(カントリーエレベーター等)を有する地域では、積極的に活用し、品質の向上と均一化、施設の利用率向上に努めましょう。

■■秋の農作業安全確認運動実施中 「しめよう!シートベルト」 実施期間 9月1日～11月30日
 農業機械作業による死亡事故が多発しています。シートベルトを着用することで死亡事故の発生を大幅に低減できるため、トラクター運転時は装着を徹底しましょう。また、安全フレームやシートベルト等の装備を改めて確認し、公道を走行する際は、灯火器類の設置や法令遵守を徹底しましょう。